

# ペルマタさん 一時制4年 県2位

## 生活体験 発表大会 家族の励みで不信克服



第2位の県教委賞に選ばれたペルマタ・スルヤ・ウイジャヤさん

愛知県図書館で3日に行われた第60回愛知県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会で、県立一色高校定時制4年のインドネシア人、ペルマタ・スルヤ・ウイジャヤさん(20)が、第2位となる県教育委員会賞に選ばれた。

同大会は定時制・通信制に通う生徒が、自らの体験を作文にして発表するもので、今回は31人が出場した。

ペルマタさんは「雨に咲く花のように」と題し、

「15歳で来日して日本語を学ぶものの、友達ができずに人間不信に陥った自分を家族が励まし、わずか1カ月の入試勉強で定時制高校に入学し、定期テストで好成績を取った自信から、いろいろなことにチャレンジできるよつになった」という趣旨のエピソードを披露し、「別掲」県教委賞に入った。

ペルマタさんは現在、定時制高校に通いながら、西尾市教育委員会の学習指導員として、日本語初期指導教室カラル(鶴城小学校内)で日本語指導が必要な児童生徒に、学習支援を行っている。



# 雨に咲く花のように

## 県立一色高校 定時制4年 ペルマタスルヤウイジャヤ

私は、15歳の夏にインドネシアから日本に来ました。「このままではいけない。自分を愛したい」と思った私は、日本語がまったくわからず、ボロボロと泣きながら、ある日、勇気を振り絞って、日本語教室の女の子に話しかけました。それ以来、勉強をする以外はずっと、家で過ごす日々。いつもひとりぼっちで、遊んでもらえないのは、兄たちくらいで、半年たっても、友

達は一人もできませんでした。冬になると両親に、「高校に進学しないか」と言われ、私は「嫌だ」と答えました。日本語に自信がなかったからです。両親とけんかになりました。パニックで涙が止まらなくなりました。でも、母は泣きながら、「もうしてもいいよ」と言ってくれました。私は涙を拭きながら、「もうしてもいいよ」と言ってくれました。私は涙を拭きながら、「もうしてもいいよ」と言ってくれました。

言われ、定時制の高校に進学することを決めました。KIBOUで入試直前の1か月、過去の問題を解いて勉強し、合格することができました。

高校の先生たちは、漢字にふりがなをつけてくれたので、授業はなんとかわかりました。でも私はまだ日本語がよくわからず、いつも誰かに悪口を言われているような気がしました。学校の帰り、バスを降りて、家が見えなくなると突然、涙がとまらなくなり、1学期のテストが終わり、クラス順位が発表される日が来ました。結果は、「4位」。驚きました。

うれしくて飛び上がった。こんな上位とは思わなかったから。これは大きな出来事でした。日本に来て初めて私の「自信」が生まれました。

これをきっかけに、いろいろなことにチャレンジしたいと思うようになりました。文化祭では、先輩たちと一緒にダンスを発表しました。人前に出るのは勇気がいりませんが、でも、夜遅くまで練習し、クラスの仲間や先輩たちと心を一つにしたダンスをすることができました。

割れんばかりの拍手をもらい、とてもうれしかったです。

3年生の時は、英検2級に合格しました。英語と日本語を完全にマスターするのが今の目標です。

国際文化学科の大学入学を目指しています。

一色高校の定時制にはいろいろな困りごとがある人が学びに来ています。彼らと話したり、授業で学んだりするうちに、世界の文化に興味を持ちました。そして、もっと深く学びたいと思ってきました。こんな夢を身え、応援してくださる先生や友達に感謝しています。そして、高校進学を強く勧めてくれた両親にも感謝しています。

4年生になって、「学習指導員」という仕事をやるチャンスももらっています。日本に来たばかりの子供たちが勉強する教室のカラルで、算数を手伝ったり、カードで遊ぶのを手伝ったりしています。週に一回、花ノ木小学校の授業に入ってから先生の話や質問を聞いています。だから、彼らが、いつか強くなれると信じています。

以前は、日本語がわからなくて、けんかになっていました。日本語が分らないで、言いたいことを言えず、友達にいい目をつけられて、勉強が全然理解できない。そういう子供を見て、昔の自分を思い出します。だから、そんな子供たちを心から応援したいと思っています。彼らが、いつか強くなれると信じています。

私も、涙をたくさん流しながら努力し、成長することができました。みなさんも頑張ってください。